

先月二十三日、旧和納保育園の跡地を利用して、みなさんの前に公開した歴史民俗資料館——ここには、「先人の文化と暮らしを見つめ、貴重な資料を後世に残そう」と、これまで村内各地から集めた生活用品や農具など約四百点が展示されています。これらの収集品は、すべて文化財ボランティアのみなさん（公民館の高齢者学級の有志が中心）が積極的な活動で集めたものばかり。そこで今号では、この歴史民俗資料館を通して、地道な活動を続けている「文化財ボランティア」の姿を追ってみましょう。

実践的活動志向からボランティアが発足

まずはじめに、この文化財ボランティアができた「きっかけ」みたいなものからお話ししないといけませんね。リード文にもご紹介したように、文化財ボランティアの中心的役割を果たしているのが公民館の高齢者学級生。そもそも昨年の高齢者学級で、「生きがいや健康づくりといった講座（受け身？）も無いが、もっと積極的に何か活動ができる実践的なものがほしい」という声が上がった。それにタイミングを合わせたわけでもないのですが、村文化財保護審議委員長の斎藤嘉吉さんから、「実はお年寄りのみなさんから、村が保存している民具などの整理をぜひ手伝ってほしい」という話があり、高齢者学級では学級連

営委員会に諮ってアンケート調査をした結果、百四十人の学級生の中から約五十人の積極的な参加意向があり、このボランティア活動がスタートしました。しかし、残念なことに昨年は一回の活動もありませんでした。ところが、間瀬研修所（旧間瀬中学校）に保管してある民具などを、この歴史民俗資料館に移す作業から活動が始まりました。このときはPR不足もあってか、ボランティアは八人と少なかったものの、二回目の活動（五月）では二十人ほどが集まり、園内（資料館）のそうじやブルーを利用したアヤマ園の造成、集めた民具の部屋割りに汗を流しました。

とここで、このとき「いちいち案内状を出して招集していたのでは、ちっとも活動が進まない。指定日を決めて毎月集まったらどうだろう」という提案が参加者から出され、毎月一回、第一月曜日を文化財ボランティアの定期活動日に決めました。そうすると、さすがは熟年軍団の高齢者学級生。持ち前の豊富な知識と経験を十分に発揮した活動がはじまりました。それも自分たちが持っている特長や特技を駆使するのですから、集めた資料の分類や整理、分野ごとの台帳作成など、トントン拍子に作業が進みました。



昔を懐かしむ写真も展示されたオープン当日

歴史派御用達

文化財ボランティア

魅せます
とっておきの

歴史民俗資料館



村内各地から集められた生活用品や農具などを、持ち前の豊富な知識や経験を生かしながら整理、分類にあたる文化財ボランティアのみなさん

「だらけの傷ついた？ものばかり（失礼ですが）」でしたが、貴重な時間と細かい手作業に支えられてオープンにまで漕ぎつけたものです。だからそんな目に見えない地道な部分、活動に目を向けてほしいですね。

さてオープンした資料館——この日王は、何といつても通称「ヤバネ」といわれる直径約六寸の木製の「もみすり動力機」。牛や馬がこの周りをぐるぐる回ると、その力で脱穀やもみすりをするという畜力動力機です。使われていたのは大正から昭和初期にかけてといわれる非常に珍しいものです。このメインのヤバネにもボランティアのみなさんのアイデアと工夫の跡がうかがえます。写真でもおわかりのように、牛（模型ですが）を調達してきて、当時の様子を演出していました。このほか、古い作業着なんかもマネキン人形を使って展示するなど、新しくオープンした資料館並み!?の見せ「演出」を行いました。

ビジョンが広がるこれからの資料館活用

「正直いって、資料館なんて呼ぶにははずかしい内容かもしれません。でも、このオープンによって、少しでも多くのみなさんから文化財に対する関心をもってもらおうことと、眠っている貴重な資料の発掘、そして愛するふるさと岩室村の再発見のための一つの手がかりになってくれれば最高なんです」と公開のねらいを話す公民館。そのため、こ

毎回積極的な活動で歴史民俗資料館をオープンさせた——文化財ボランティアのみなさんの声をお伝えしましょう。

懐かしい道具類がたくさん



脇田正一さん (和納4区・70歳)

わたしは古い道具類に興味があったので参加させてもらいました。いざ活動を始めると、昔使ったことのある道具が見つかり、ホント懐かしさでいっぱいでした。また毎回大勢の人と話をしながら活動できることが、これに参加して良かったことですね。今後は集めたものを古い順なんかに分けて展示するといいいね。

手入れをする姿勢に感激



永塚ハツエさん (富岡・66歳)

何かはじめるとすぐ夢中になってしまう性分なので、わたしも地区内を駆け回わり、農具など約百点は集めたでしょう。それにしてもみなさん本当に熱心で汚れた農具などをきれいに手入れして仕上げていく姿には感心してしまいました。ところで、集めた貴重な資料はウインド——なんかに展示できるといいます。

の歴史民俗資料館をこれから、①いろいろを囲んで子供たちに民話を語るコーナー（部屋）②地区の人たちがお茶飲み話なんかを気軽にできるようなコーナー（部屋）③子供や親（若い世代）たちに古き良きものを伝承するコーナーの設置——といった利用の仕方も検討しています。ここに展示してある貴重な資料から新しい何かをつくり育てていけるような、みなさんのふれあいの場にしていこうと考えています。

「ここで、こんなふうに昔の道具類を整理していると、子供のころのことや昔の思い出話に花が咲き楽しいね。またここ（資料館）をこれからどんなふう成長（発展）させていこうか、なんて話しているといういろいろと展望が広がると感謝しますよ」と、話してくれたボランティアのみなさんの声に、なんだか胸がワクワクする思いです。まだスタートしたての資料館、そして文化財ボランティアですが、みなさんの応援とアイデアでもっと大きく育てていきたいと思います。

